

自治協議会 活動・運営のヒント集

はじめに

福岡市では、自治協議会を中心に、様々な取り組みが行われており、地域の皆さまのご尽力により、それぞれの地域で住みよいまちづくりが着実に進められております。

平成16年度の自治協議会制度創設から、17年が経過する中で、自治協議会の皆さまが、“運営や活動のやり方を工夫できないかな”、“他校区の取り組みを参考にしたいな”と考えたときに、ちょっとしたヒントになればと思い、このヒント集を作成しました。

持続可能な地域コミュニティの実現に向けて、このヒント集が少しでも自治協議会の皆さまのお役に立てれば幸いです。

令和4年2月

福岡市

目次

I 活動・運営のヒント

参加しやすい仕掛け	1
持続可能な組織づくり	2
運営の効率化	3
活動や運営の見える化	3
多様な主体との連携	4

II 住みよいまちをつくるための大事な取組み

安全な暮らしを支える	5
子どもを地域で育てる	6
まちをきれいにする	7
健康づくりに取り組む	8
献血に協力する	9
住民が交流する	10
男女共同参画の視点を取り入れる	11

I 活動・運営のヒント

自治協議会は、住みよいまちをつくるためにみんなで話し合いながら校区を運営し、幅広い取組みをしています。ここでは、運営や活動において、それぞれの校区で工夫されていることや紹介したい取組みをまとめました。

参加しやすい仕掛け

●無理しないことを第一に

「無理をしない」を基本としています。昔から続けている行事を見直すことで、役員の負担も減りました。みんなが無理せず、楽しみながら活動できるようにしています。

●男女を問わず、幅広い年齢を役員に

役員は男性に偏りがちですが、住民の約半数は女性であり、活動にも多くの女性が参加しています。役員構成を多様化することで、性別を問わず、幅広い年齢層の視点が入り入れられることから、活動の参加者や協力者が集まりやすくなっています。



●若い世代も参加できるように

固定しがちな担い手に若い世代を呼び込むため、ホームページやSNS等で活動の情報を発信したり、会議日程を集まりやすい平日の夜や休日に設定したりしています。

●子どもを通じた保護者のネットワークづくり

子どもが行きたいと思うような楽しい行事を企画すると、子どもだけでなく、保護者もたくさん参加してくれます。保護者のネットワークができると、参加者や協力者の広がりにも期待できます。

●活動の協力者にはお礼を

人に「ありがとう」と言葉で感謝を伝えられるとうれしくなります。ちょっとした気配りで次の役員や活動のリピーターになってくれるかもしれません。

また、大きなイベントでは、準備や片付けの協力者に対し、少しずつでも謝礼を渡して、みんなで役割分担しやすいようにしています。

●声掛けを大切に

地域の催しへの参加は、きっかけや知り合いがいないと勇気がいるものです。初めての方も気軽に参加できるよう、日常のあいさつから始めて、近隣住民と顔見知りとなり、催しにいろいろな人を誘っています。

また、初めて参加してくれた人には、ベテランや役員が名前を呼んで、声掛けするなど、参加しやすい雰囲気づくりにも努めています。

●オンライン会議を始めました

オンラインと集合形式を組み合わせることで、仕事や子育てで忙しい世代も、総会や役員会に参加しやすくなっています。パソコンが苦手な人も、得意な人に教えてもらいながら、みんなで少しずつ慣れていっています。

持続可能な組織づくり



●後継者を見つけるために

役員の負担が大きいと後継者になる人はなかなか見つかりません。地域活動のために必要な交通費など、活動費はきちんと支払い、金銭的な負担はかけないように注意しています。

また、会計や書記などの仕事は、専任の事務職員に任せることで、役員にかかる事務の負担を減らしています。

●だれでもできる体制を作ろう

大きな催しなどには多くの人に関わります。運営マニュアルやメモなどで情報共有し、だれが何を担当しても困らないようにしています。

また、人手が足りないときや負担が大きいつきなどには、仕事を専門の業者に委託しています。

●多くの人が役員を経験できるように

一部の役員は、任期を決めて、固定化しないようにしています。役員を複数制にするなど新旧役員が重複する期間を設けると、新任役員の精神的な負担も軽減されます。誰でも役員を担える体制にして、多くの人が運営に携わると、活動への理解が深まり、協力者を増やすことにもつながります。

運営の効率化

●事務作業を簡単にする

自治協議会、各種団体の予算書などの様式を統一することで、みんながわかりやすく、使いやすくなり、事務作業がはかどっています。

また、ハンコレスの流れを受け、議事録や受領書などへの押印は、みんなで話し合った上で、できるだけ直筆サインに変えていっています。

●一斉連絡も簡単に

役員同士の連絡手段としてLINEを使っています。最初は、LINEが苦手な人には個別に連絡していましたが、みんなで使い方を教えあい、今では一斉連絡も簡単にできています。



活動や運営の見える化

●みんなに大事な情報を

定期的に発行している広報紙には、活動内容や校区内のニュースなどを載せています。少しでも目にとめてもらえるように、色つきの紙を使っています。広報紙以外でも、ブログ等を使って、校区の情報をお知らせしています。

●会費の使い方をオープンに

会費は会員の皆さんからお預かりした大事なお金ですので、予算書・決算書の全戸配布やホームページの掲載などにより、積極的に会員の皆さんに報告しています。お金のことをなんでもオープンにすることで会員から信頼を得ています。

多様な主体との連携

●イベントは実行委員会で

何もかも役員だけでやろうとすると負担が偏ってしまいます。そこで、イベントに関する複数の団体や、活動に参加したい住民と一緒に実行委員会を立ち上げてイベントを開催しています。

●公民館や小学校と連携を

目的や活動が類似している複数の活動は統合して、みんなで連携しながら進めています。小学校や公民館と連携することで、新たな視点が加わるだけでなく、活動場所が確保でき、活動の協力者や参加者も増えます。様々な団体と連携すると、顔なじみが増え、単独でやるより効率的、効果的に活動できます。



●隣の自治協議会と合同で

隣の自治協議会と合同でイベントを行っています。自治協議会が連携し、みんなで分担して取り組めば、活動の幅も広がり、参加者が増えて盛り上がります。

●企業や学生と連携

人、モノ、場所、ノウハウ、専門性など、企業や学生などが持つ様々な資源を地域活動に活かして一緒に活動しています。企業や学生が馴染みやすいよう、活動を一緒にしてくれた企業や学生を自治協議会のホームページで紹介しています。

また、大学生に来てもらうため、大学の広報課を通じてボランティア活動をしているサークルを紹介してもらったりしています。

Ⅱ 住みよいまちをつくるための大事な取組み

市は、自治協議会が行う公益的な活動に対して、自治協議会共創補助金を交付し、校区の活動を支援しています。

自治協議会共創補助金で定めているまちづくり基本事業は、住みよいまちづくりのための大切な取組みです。

ここでは、大切な活動をこれからも無理なく続けるために、複数の活動を組み合わせた活動や、多様な主体と連携した取組み等を紹介します。

安全な暮らしを支える

登下校時の見守りや防犯パトロールなど、犯罪や事故を未然に防ぐための活動や、いつ起こるか分からない災害に備えた防災訓練などは、安全で安心な暮らしを支えています。



●ながら防犯

「仕事」「通勤」「犬の散歩」「買い物」など、日常生活の中に防犯の視点を取り入れ、地域の「異変」「異常」等に気づいた際に知らせてもらうことで、誰もが気軽に防犯活動を実践しています。

効果

- ・地域住民にも気軽に日常生活の中で取り組んでもらえる。
- ・活動グッズを協力者に配布することで地域住民の見守りの目があることをPRできる。

●子どもと一緒にパトロール

下校時間などに合わせて、日中に交通安全パトロールや防犯パトロールを子どもたちと一緒にいきます。子どもたちが交通安全マナーを学ぶ機会となるとともに、子どもたちと一緒に通学路の危険箇所を点検・確認することができます。

効果

- ・子どもたちが地域の人と関わり、地域社会の一員としての自覚を持つことができ、青少年の健全育成・非行防止にもつながる。

子どもを地域で育てる

地域は子どもにとって様々な世代の人とふれあうことができる場です。いろんな楽しいイベントを通じて、家庭や学校だけでは身につけることができないルールや慣習を学ぶことができます。



●地域行事でジュニアリーダーや学生が活躍

子ども会のジュニアリーダーや、大学・専門学校等の学生が、子どもを対象とした地域イベントなどの企画や運営に積極的に参加し、地域で活躍しています。

効果

- ・中高生世代の子どもたちが地域の人と関わることで、子どもたちの体験活動の幅が広がり、地域活動の大切さを学んでもらうことができる。
- ・運営役員の負担を減らすとともに、ジュニアリーダーの活躍を通して子ども会活動の周知もできる。
- ・大学や専門学校等の学生にとって、授業で学んだことを実践する機会が得られるとともに、地域と関わることで社会の一員としての役割を認識することができる。

●公民館と連携した中高生の居場所づくり活動の実施

公民館を活用して、定期的に中高生が気軽に立ち寄ることができる居場所づくりを行っています。公民館職員や日頃公民館を利用している有志に協力をいただきながら、中高生を見守っています。

効果

- ・思春期特有の悩みを抱えた中高生に、家庭や学校とも違う第三の居場所を身近な地域に提供することで、ほっとできる安心感を与えることができ、非行や不登校等の予防につながる。
- ・公民館職員や日頃公民館を利用している方に見守りに協力していただくことで、運営役員の負担を減らすことができる。

まちをきれいにする

まちかどや公園などの清掃や草取りを行ったり、花を植えたりするなど、住んでいるまちをきれいにする活動を行っています。また、資源回収やリサイクルボックスの管理など、ごみの減量・リサイクルにも取り組んでいます。

● 定期清掃とイベントの同日開催

毎月、定期清掃を行っている公園で、年に数回、イベントの前後に、イベントの参加者と一緒に定期清掃を実施しています。公民館や複数の団体と連携しながら、多くの住民に参加してもらえよう楽しく活動しています。



効果

- ・みんなと一緒に清掃を行うことで、公園や地域に愛着が生まれる。
- ・定期清掃をイベントと併せて実施することで、参加者が増え、楽しく活動を継続できる。
- ・地域活動後に人が集まるイベントをすることで、多くの地域住民に地域活動に参加してもらう。

● イベントを活用した環境啓発

地域のイベントにおいて、資源物回収（古紙、小型家電）やフードドライブ※を行い、環境の取組みについて啓発しています。

効果

- ・参加するイベントで、多くの住民に、環境の取組みを知ってもらうことができる。

※フードドライブ・・・ご家庭で使い切れない未使用の食品を集め、必要としている団体に、無償で提供する活動のこと。

健康づくりに取り組む

地域で健康づくり活動を行うことで、自分自身の健康につながるだけでなく、地域の交流も生まれます。健康づくり活動は、誰でも気軽に参加でき、ほかの地域活動（防犯・交通パトロールなど）と一緒に取り組みやすい活動です。

●地域活動×健康ウォーキング

誰でも日常に取り入れやすい健康づくりのためのウォーキングに、交通安全パトロールやハザードマップの確認などの要素を取り入れることで、地域を住民自身の目で見守ることになり、防犯や子どもの安全を守ることにもつながっています。



効果

- ・自身の健康に関心を持ち、日常生活の中で健康づくりに取り組んでもらえる。
- ・自身の健康づくりの取組みが、自らの暮らすまちの安全につながる。

●食を通じた地域の絆づくり

親子、子どもと高齢者のペア、男性、外国人など、多様な住民を対象とした料理講習会を実施しています。料理とともに、食品ロス削減など、ごみ減量・リサイクル推進に関する環境問題について学ぶことができます。

効果

- ・多様な住民を対象とすることで、子どもの健全育成や高齢者の社会参加促進、男女共同参画を学ぶ機会などにつながる。
- ・料理を通じた交流が生まれ、地域の絆づくりのきっかけとなる。

献血に協力する

病気の治療や手術などで輸血を必要としている人はたくさんいます。地域では、住民への協力の呼びかけや献血場所の確保などに取り組み、集団献血を行っています。



●企業等との協力を得て集団献血を実施

ショッピングモールや飲食店、ドラッグストア、病院、駅などの協力を得て、商業施設内や駐車場などで集団献血を実施しています。

効果

- ・人、モノ、場所、ノウハウ、専門性など、企業や事業所が持つ様々な資源を地域活動に活かすことで、地域活動の幅がひろがる。
- ・買い物や通勤の際に立ち寄ることができるため、献血者を多く確保できる。

●近隣校区合同で献血を実施

近隣の校区で協力して、より広い地域の住民への呼びかけやオリジナルのPRグッズの作成など効率的で効果的な集団献血に取り組んでいます。



効果

- ・校区間で役割分担を行い、より負担が少ない取り組みにできる。
- ・多様な人材やつながりを活用することで、効果的な活動につながる。

住民が交流する

三世代交流会、スポーツ大会など、子どもから大人までみんなが気軽に交流できる楽しいイベントを行っています。楽しみだけでなく、地域の多くの人が顔見知りになれるとても大切な活動です。



●三世代交流事業(スポーツ交流会、運動会、ウォーキングなど)

子どもから高齢者まで三世代が参加できる事業を開催しています。

効果

- ・イベントの参加対象者が幅広いため、参加者が多くなる。
- ・日頃あまり関わりがない人たちと交流できる機会となり、顔の見える関係づくりにつながる。

●校区の大規模イベントで、地域活動を紹介

校区の運動会や夏祭り、文化祭などにおいて、各種団体のブースを設置し、校区における地域活動を紹介しています。



効果

- ・地域住民に、自治協議会の活動を知ってもらうことで、活動への参加者や担い手の発掘につながる。

男女共同参画の視点を取り入れる

地域には、赤ちゃんから高齢者、単身者やひとり親など、多様な人が暮らしており、防災や防犯、環境、子ども、健康づくりなど様々な地域活動が行われています。男女がともに参画して取り組むことが、よりよい地域づくりにつながります。



●女性の視点を活かした地域活動

男女共同参画協議会と連携し、地域活動に女性も参画することで、女性の視点（気づき）を活かした取り組みができます。たとえば、校区の防災訓練の際には、「女性の視点を活かした防災ミニブック」を活用するなどして、女性や子ども、高齢者などに配慮された避難所運営を行うことができます。

効果

- ・「男性」「女性」「子育て中」など、様々な立場の人が参画することで、たくさんの気づきを活かした活動ができる。
- ・男女ともに参加しやすくなる。

●イベントを活用した男女共同参画の推進

男女共同参画週間「みんなで参画ウィーク（11月3～9日）」の取り組みとして、公民館等との共催で講演会などを実施したり、校区の文化祭で男女共同参画についてのアンケートを実施するなど、地域でのイベントを通じて男女共同参画を推進する様々な活動が行われています。

効果

- ・参加するイベントで、広く地域住民の理解を促すとともに、男女共同参画への意識の浸透を図ることができる。

地域を支援する窓口

- | | | |
|---------------|---------------|--------------|
| ●東区地域支援課 | 電話 645-1041 | FAX 645-1042 |
| ●博多区地域支援課 | 電話 419-1048 | FAX 434-0053 |
| ●中央区地域支援課 | 電話 718-1062~3 | FAX 714-2141 |
| ●南区地域支援課 | 電話 559-5071~5 | FAX 562-3824 |
| ●城南区地域支援課 | 電話 833-4062~4 | FAX 822-2142 |
| ●早良区地域支援課 | 電話 833-4416 | FAX 851-2680 |
| ●西区地域支援課 | 電話 895-7036 | FAX 882-2137 |
| ●市民局コミュニティ推進課 | 電話 733-5161 | FAX 733-5595 |